二川相近書跡目録

福岡市立歴史資料館調査研究報告

3

1975

福岡市立歴史資料館

二川先生之遺像

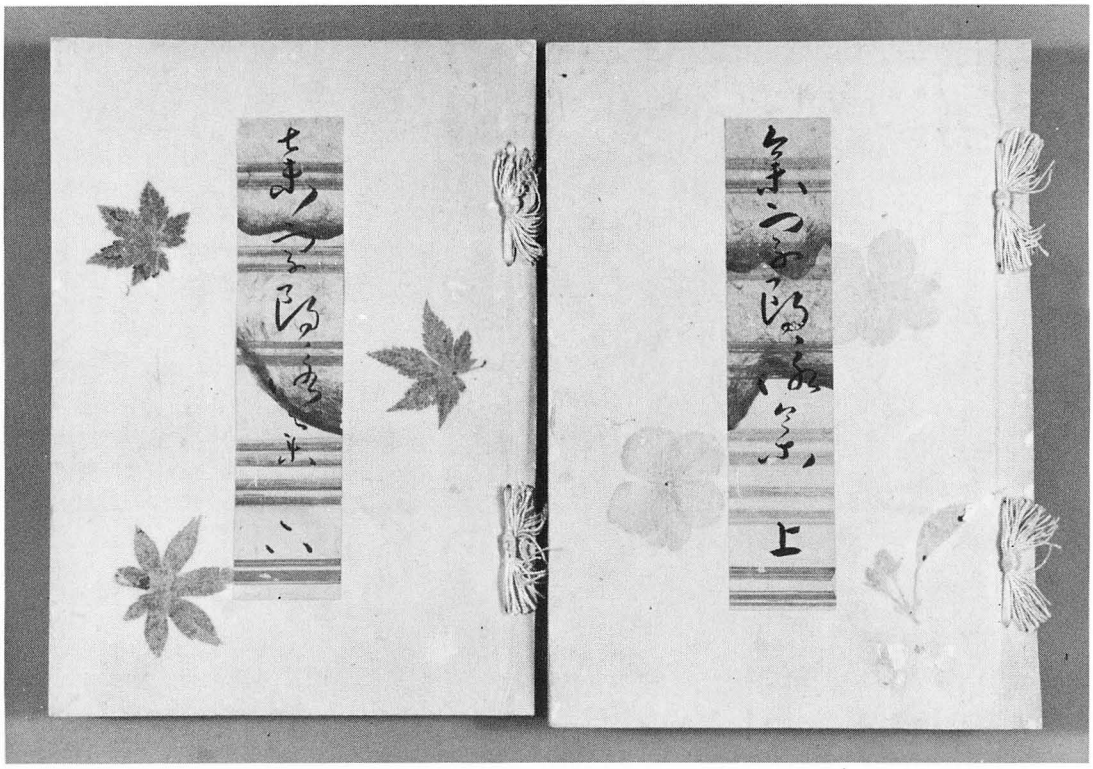
國風文雅　古今絶倫

臨池七十　自若居貧

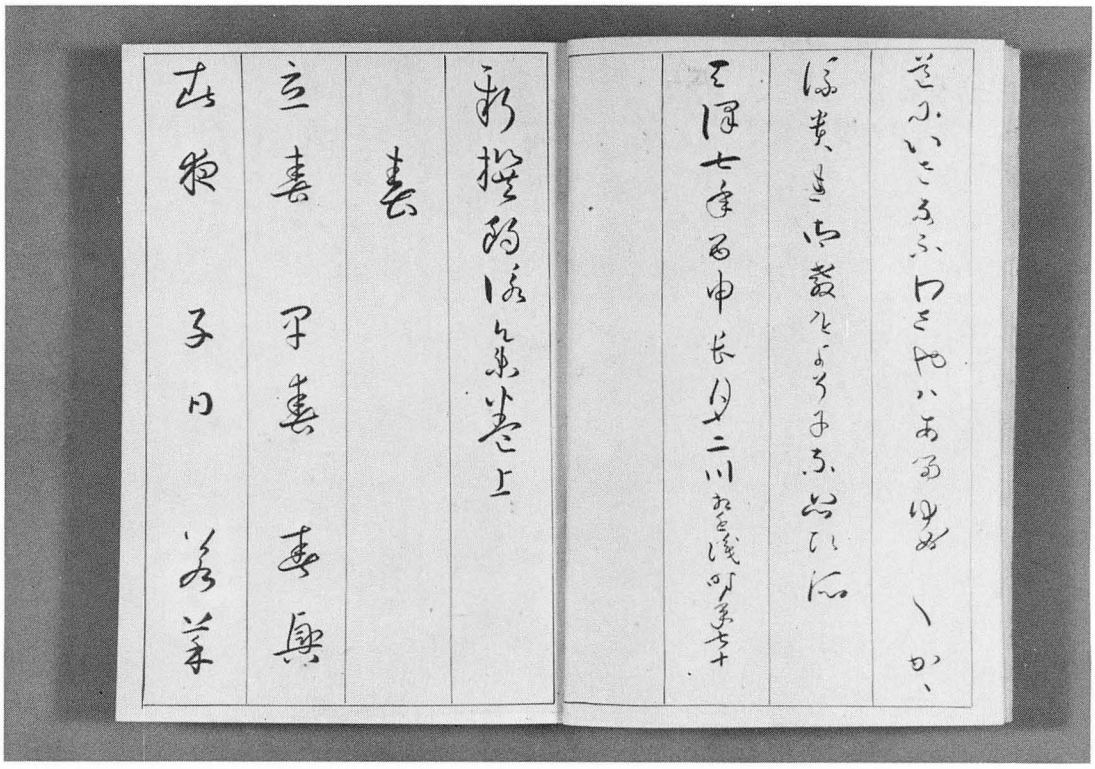
弘化三年歳在丙午晩夏念七日　庄後藤橘謹画并題

二川相近肖像

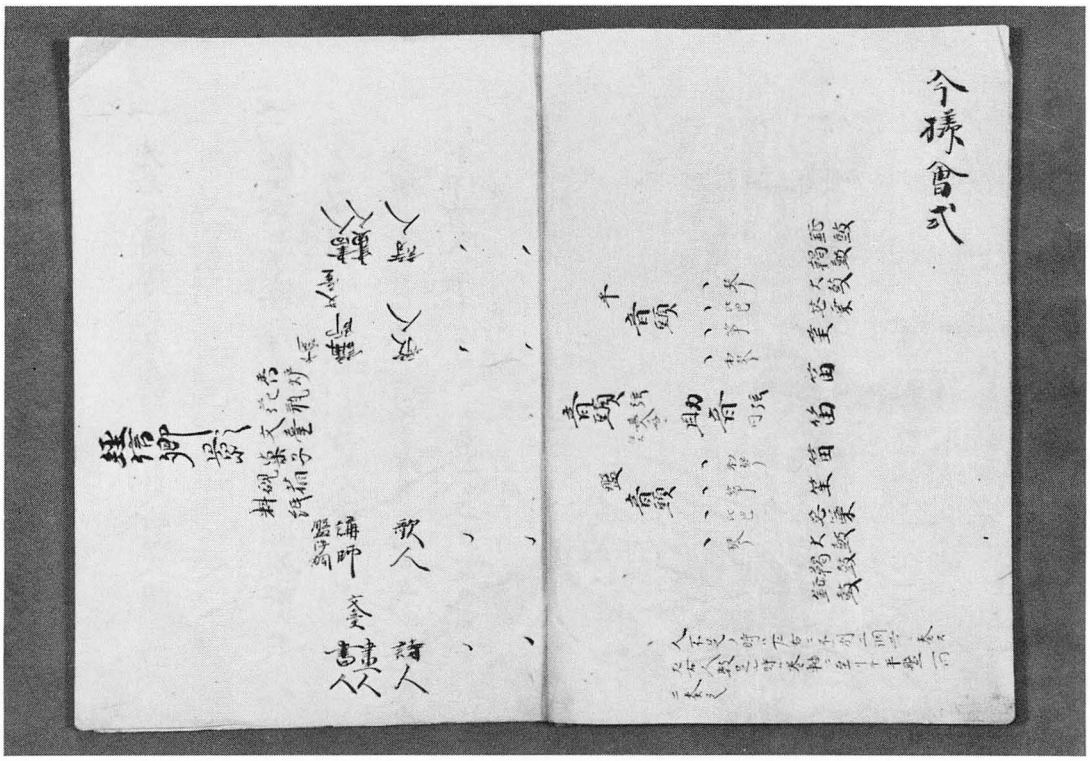
二川力也氏蔵



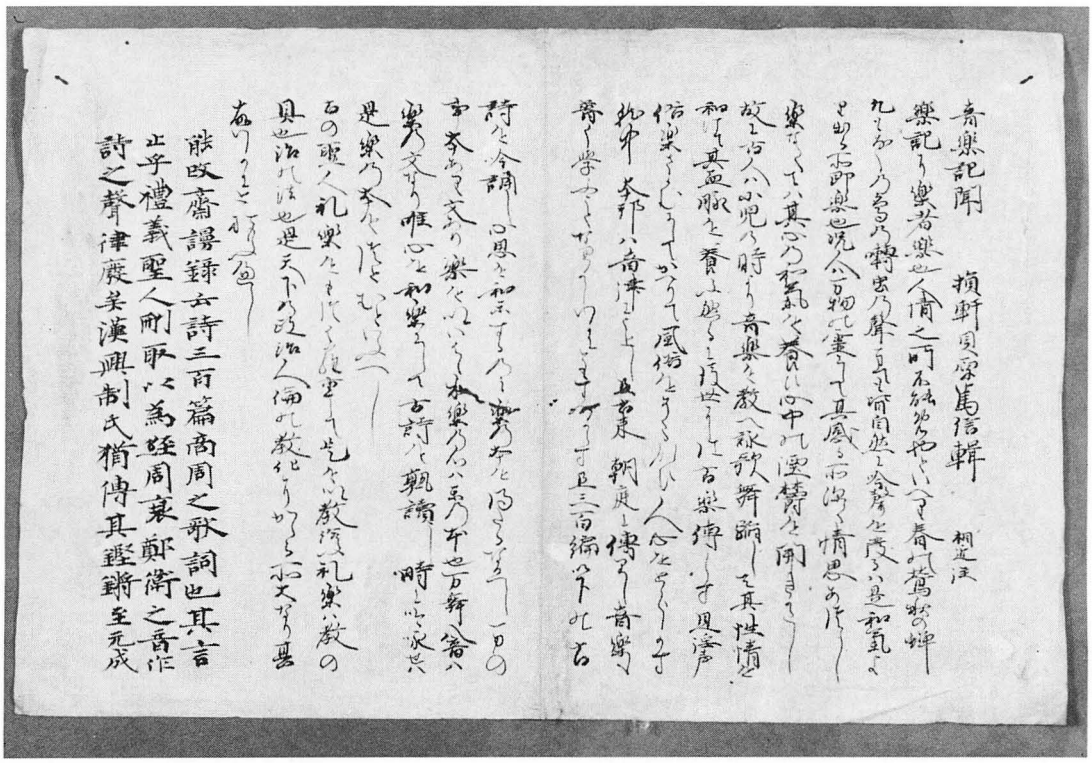
史料番号　191. 192.



史料番号　同上内容



史　料　番　号　　169



史　料　番　号　　101

史　料　番　号　　200

史　料　番　号　　139

凡　例

一、本歴史資料館所蔵に係る古文書目録の第二輯として、本号には「二川相近書跡目録」を収録した。

一、二川相近は、松蔭または篁里と号し、通称を幸之進といった。明和四年（一七六七）十一月、桝木屋町に生れた。二川家は代々黒田藩の御料理人頭格であった。相近は、幼時から亀井南冥に師事して漢学・漢詩を学んだが、後、感ずるところがあり、専心書道の研修に励み、大師流その他の書法を消化して、二川様を創始し、『執筆法』を著した。また、国学・歌文を田尻梅翁に学び、『松蔭草廬録』その他を著した。なお、音曲に長じ、『古学音譜』のほか、自作の今様歌『しきのはねがき』を遺した。現在、黒田節の名によって流行している筑前今様は、相近が雅楽の越天楽を変曲して、婦女子に歌わせ、その教養に資したものである。

相近は、二十八歳で家職の御料理人から書学師に抜擢されたが、生来多病の質であったので、中年のころから門戸を閉じて外出せず、庭内に徒然社を祀り、兼好法師に肖かって、隠逸・恬淡もって自適し、天保七年（一八三六）九月二十七日七十歳で没した。墓は福岡市中央区大手門二丁目の円応寺にある。

本館が、昭和四十八年度に、二川力也氏から譲渡をうけた二一三点の、全般を通じていえることは、書家としての相近の筆跡を見るうえで貴重である点であるが、一部を除いては、ほとんどが音曲・漢学・漢詩・国学・歌文等の混合した、相近の教養を知る資料であって、これらを類別することは厄介であり、事実困難なものが多い。したがって目録では、本館入手当時貼付された番号順にこれを配列し、目録利用者の便宜を考慮して、とくに注目に値すると思われるものについては、いささかの注記を加えた。それらのうち一九一・一九二の『集字朗詠集』上・下二巻は、病没数日前に完成したものであって、その内容・筆跡ともに、相近の精髄を窺わしめるに足るものである。このたび二川家の好意によって巻頭を飾ることができた相近の肖像と彼此対照して、その面目を想起してほしい。

一、史料の表題は、原題のあるものはこれを採用し、推定で仮に命名したものは「　」を付して区別した。形態・数量については、折本以外は葉数で表した。

一、昭和四十八年度史料購入時に岡田千昭が整理にあたり、目録刊行のため原稿作成を筑紫豊が行い、田坂大蔵が編集した。

番号	表題	摘要	葉数
1	「八柱承天……」	楷・行・草諸体の書字がある。	一七葉
2	「宮廷人名録」	村上天皇をはじめ、廷臣の官姓名を列記したもの。楷書。	九葉
3	櫻帖	古歌帖。	一五葉
4	源氏今様	西三条逍遙院内大臣実隆公作「源氏目録今様」。	七葉
5	「烏石耽書及瓦石」	細字草書。	一五葉
6	「占春園裏……」	草書。	一三葉
7	「雁鳴きて……」	ほか和歌一〇首。	一〇葉
8	「華間覔友……」	「秋萩の花開にけり…」等。楷草交り。	一三葉
9	「栝香新黍……」	細字。	二七葉
10	「雪の日々記」	自叙伝。	一〇葉
11	「筑前音楽史」	貝原益軒、竹田定直、高畠瀧等について記したもの。	六葉
12	「玉篠の書字」	相近の二女玉篠の書字か。	四二葉
13	「徂徠先生……」		八葉
14	松陰集帖巻第二	「筑州書員二川相近摸」とある。内容的に重要である。	一部二四折四八面 二部二五折三〇面
15	「詩歌等雑綴」	和歌、漢詩・集字・水雲梅碑・相近詠・平景熙碣(刀法のことなど)。	一六葉
16	「去路千程」	漢詩集。	二二葉
17	松蔭樵唱叙	相近作漢詩その他。	一四葉

18	「閑園二月伴華……」	和歌を含む雑綴。	一八葉
19	南郭（唐詩）	草書。	一三葉
20	「法の水」	草書。	一一葉
21	「浅茅原」	「浅茅原つばらつばらに」の大伴の旅人の歌ほか。	九葉
22	「詠雨中鹿」	和歌。	九葉
23	枕石帖	草書。	一六葉
24	葉月の落葉	四五首。	一〇葉
25	（天保四年　六七才）「癸巳七月一日に……」	和歌・漢詩集。	一二葉
26	「楽器音律の記」	楽器の音律について記述したものである。	三葉
27	「兵法の書」	「兵法とは武芸をすぶる名なり云々」とある。	四葉
28	「音楽の説」	「文政七年（一八二四）長月六日、あらしのをかなるつれづれの神社のかたはらにて、相近書。」音楽の楽しみを説く。	一三葉
29	音楽論	「これを平上去といふ……」	七葉
30	筆弁慶二	兵学。	一二葉
31	「万葉歌」	平仮名書。	四七葉
32	「下描の絵」	反故紙に竹・桜などの絵を描いたもの。	一一葉
33	「県居翁家集」	万葉歌三葉。晋右将軍王羲之云々・嬰風餘録（相近）元日（和歌）・水城樋村詩等。なかに「……たるなり、さて此二翁のたぶりは、此二歌にてしらる」として梅翁の和歌一首と南冥の漢詩一首を記したものがある。（田尻）（亀井）	一七葉

34	「古歌書写」	和歌・漢詩・漢文。	一一葉
35	「老荘が海棠を」	和文。	一八葉
36	手習歌鈔	表紙に「六」とある。「手習歌鈔六 後拾遺とあって三〇首の和歌を書写し、なお「後拾遺終」として金葉集の歌一首を細書している。	六葉
37	手本	楷書雑綴。	二〇葉
38	「カゴ字」	筆法をていねいにカゴ字で示している。	八葉
39	琵琶雑記		五葉
40	「いろは歌その他」	雑綴。	一五葉
41	右軍集字	仮名渋紙表紙つき。	四二葉
42	「惟聖皇之……」	中字・草書。	一〇葉
43	和漢朗詠集	一部書写。	八葉
44	「相近・玉篠綴」	なかに相近とあって 玉篠 の黒印あるものがある。	一五葉
45	詠草	一九首。奥に「源相近、この興どもすぐれておもしろくうちき、奉候、那珂のいはきぬし　御もとへ」とある。	三葉
46	「詩歌雑記」	万葉一二巻の歌（五丁）、漢詩（四丁）、今様（万葉仮名）（五丁）、唐詩選巻之七（一丁）。	一五葉
47	右軍集字	仮名。渋紙表紙つき。	四三葉
48	歌詞研究		一〇葉

49 「和漢詩文雑集」

中に、「夏木立茂が中に栖我を蚊遣の末に人は去らむ」の和歌、「已近蘭亭脩禊時……奉謝　相近上」の漢詩、「汝が栖里の華はしもいかなるいろに匂ふらむやよひの空に立帰るかりの行へそゆかしき」の今様、「年のくれに上村兵介ぬしが紅梅のえならぬえだをたをりてもてきたるを、相近、惜めどもことしも今日にくれなゐのこそめの梅にこぞをしのはむ」の題詞。和歌などがある。

二一葉

50 「玉篠筆跡」

相近の和歌九首、相近の扇面写。同梅花の写。竹の絵。扇面（貧の説）相近。扇面和歌五首相近。相近和歌一〇首。相近和歌四首。相近・大伴旅人「酒をほむる歌」扇面写。その他

四九葉

51 「歌文集」

書字いろいろ。

一九葉

52 「冬郊霜後路……」

一二葉

53 「絃中真得趣……」

文政十一年三月書。「奉櫻井大神広前歌……故大宮司浦氏外遜二川相近上」。「林表堕金鴉……文政十一年三月書相近」。「奉和磐谷先生……相近上」。「和春翁佳什……相近」。今様「水とこがねはひとつものひきゝところをおのがすむすみかにしめてゐたりけり」。その他音楽関係のものなど一綴。

一八葉

54 「千字文等雑綴」

雑綴。千字文一葉。喜撰法師一葉。いろは歌一葉。なにはづに……一葉。朱蓮浮緑水…一葉。鶉鳴古郷之……一葉。吹くからに……一葉。蓑荷というも草の名一葉。攬勝一葉。和歌・詩稿一葉。

一〇葉

55 「古歌粗写」

七葉

56 「仙人楼上風皇飛……」

九葉

57 「新春・七夕試筆」

（一八一五）乙亥七夕書・（一八一八）戊寅試筆その他。

一五葉

58-1 「細字筆跡」

楷・行・草細字。

八葉

58-2 「歌　文」

（一八二四）「文政七年長月六日　あらしのおかなるつれづれの神社のかたはらにて　相近書」。音楽の楽しみを説く文。詠草二二首。和矢野八首。博多八景の詩。その他。乱丁がある。

八葉

59	「詠草・歌論」	草稿その他。	一一葉
60	「やつはしくみ」	一～二三今様。「越天楽唱歌」一～一二（但し一二の歌なし）。	一〇葉
61	「習字手本」		一〇葉
62	「庭の卯花」	「庭の卯花盛ニ相成候間、一会相催可申候。兼題ハ山家外華にて御座候。」その他万葉歌など書写。	八葉
63	「今　様」	すゞなすゞしろ・まどの梅の・雨よりほかに・あをやぎの・花よりあくる・見わたせば・野辺の秋風・うれしやここに・はるによせし・はるののに。	一一〇首
64	「雑　記」	和歌・書字・手鑑の論・漢詩など雑集。	一六葉
65	「今様の記」	「今様は今の世にてならふはじめに物するいろはぞはじめなるべき……文政九年（一八二六）霜ふり月相近識」。詠草中に「癸巳（一八三三）元旦筆をこころむるとて……」の歌がある。	一三葉
66	「作刀論」	刀剣鍛冶の技術にわたることを論じたもの。	四葉
67	「嬰風歌抄」	表紙に新続古今の歌を書く。「もの、ふも和歌の道しらぬは…」一葉遊芸抄・「学士は必文章を学ぶへし」二葉その他。	七葉
68	「筑前音楽史」	貝原益軒・竹田定直・高畠瀧……等の名が見える。	七葉
69	山里集序		三葉
70	はる風双紙	巻之第一。	一〇葉
71	都九志布梨	歌友の諸歌、巻末に「へこゝろなくふりくる雨か一とせにふたたび吹かぬ華のさかりに　へきその雨にきおひて花ぞ咲きまさる庭のさくらはけふさかりなり」の一紙が貼付されている。	九葉
72	唐七絶	草書。	一三葉

73	「陰雲帯残日……」	中字草書。	一三葉
74	雑綴		八葉
75	「いつしかと……」	和歌、その他雑記。	一五葉
76	「景行維賢剋……」	隷書。	二〇葉
77	「詩歌筆跡」	草書中字。相近の歌が数首ある。	一四葉
78	「久方之……」	歌一五首。万葉歌か。	一八葉
79	「首以書」	行書。	一八葉
80	「嬰風書堂」	「文政十一年戊子之季夏（一八二八）　書　嬰風書堂相近」などとある。	一八葉
81	「和池冷魚鳥楽」	主として楷書。中に「のおくやま……世尊寺様」という一紙が挿入してある。	折本五六折
82	「順徳院の琵琶のこと……」	琵琶の音調等について。	三葉
83	「竹の絵」		九葉
84	「弘法大師草字心経」	弘法大師草字心経一巻　木版刷。妙法蓮華経、観音菩薩普門品第二十五。古写本	三葉
85	「般若心経」	古写経文、中に花押のカゴ書。	一葉
86	古写経	三行もの。	一葉
87	「尊朝法親王」		一葉
88	拓本	金光明最勝王経捨身品第廿六。	三三行
89	「長恨歌の心を」	相近。「おもひきや雨をおひたる花の枝にながきうらみののこるべしとは」	一葉
90	拓本刷	古歌五首一連。	一葉

91	拓本刷	古歌一〇首一連。	一	葉
92	「諸書写綴」	「天保三年壬辰十二月廿七日應　円應大徳尊師之徴　謹書　二川相近」。「黒田二十五騎人名　二川相近書」。「万葉歌書写　文化十一年夏日応　桜井大宮司之需書相近」。他	一九	葉
93	「要文凡六百五十七部……」		折本一二面	
94	「也陰陽処乎……」	草・行書。	折本一四面	
95	「仏典関係書」	草・行書。	一	葉
96	「真是趣」	大字。横物。	一	葉
97	「猛虎一声山月……」	下は断絶。一行大字。	一	葉
98	「いにしへのうたは……」	歌論。草稿。	一	葉
99	「信太郎様あて書簡」		一	葉
100	今　様	断片。	一	葉
101	音楽記聞	損軒貝原篤信輯。相近注。断片	一	葉
102	「……たる秋の月ハ……」	断片。	一	葉
103	今　様	断片。	一	葉
104	「弓道絵入説明」		一	葉
105	「人声ハ五音ニテ」	音楽論。	一	葉
106	和　歌	「つてならできかまほしくもおもふかな我故郷のうぐひすの声　相近　ことみち大人に。」とある。	一	葉
107	和　歌	「ふたがはぬしのみ園生の藤の花……」和歌三首。「御笑らひ草に見せまゐらす　相近」とある。	一	葉

108	「和歌集」	金葉・六帖等の歌。	一〇	葉
109	「独愛清閑夏……」		七	葉
110	「文書記録写」	藩公その他の文書記録の写しを含む。	一四	葉
111	「竹似貞……」		一四	葉
112	「境界図」	拝領地と郡地の境界図。	一	面
113	「屋敷図」	「明治二二年孟夏念三日　玉鉉堂伯望図考之。」とある。	一	面
114	筆　跡	頗る豪快な書風である。	九六	葉
115	「野春林与天花合彩……」	行書。やや大字。横綴。	七一	葉
116	「筆　跡」	王凝之（ママ）・李邕・王慈等々の書写。中に「乙丑仲春臨相近」とある。大字風。堂々の書風を示す。横綴。乱丁あり雑綴というべきか。	九八	葉
117	「習字帖」	横綴。大・中・小字。行書が多い。またカゴ字が多い。中に「懲」の字を二枚に書いたものを挿入している。	九八	葉
118～121	「二川滝三郎詩書」	「昭和戊辰孟秋　白楊居士」。大隈言道翁旧居建碑式紀念展示会の紙札三通。	一	綴
122	法　帖	草書。平仮名交り。漢字には朱で音訓を附している。	一九	葉
123	「君が代」	下書か。破損が甚しい。	一	葉
124～126	聖福寺関係碑文		一	綴
127	「惺窩（藤原）先生真跡」	木版刷。相近訳。「文化庚午暮春（一八一〇）、吉留渉書」とある。	一	枚

128 （後の望東尼）「もと返書」 一葉

へたがさともふるゆきながらかずかずに人まつかげぞこひしかりける　いでやとてれいのしづこゝろのふものし侍りしかどおさなきものゐてなかなかにきゃうなくのこしおきなんもうしろめたくてへかしましとおもふ物からうなゐこのゑまひもゆきもけたれぬるかな。いとはかなしや。みかへし　もと（野村）　林毛。

129 「もとの和歌」 一葉

へさくらばなさくにつけてもあはれとて見るらむ人のまちとほきかな。もと。

130 「もとの返歌」 一葉

みかへし　望東（野村）　へうゑそえし柳のいとにうめの実もむすびこむらむすゑぞたのしき。

131 「もとの小簡」 一葉

「友古のうしのみもとに　向陵　竹の子のつくだに……　母より」（友古は相近の養子（父鶴原定道・母矢野氏）

132 「言道書簡」 一葉

へひめこまつふたいのほどをいかにしてきみ見いでつついはふなるらむ　老たるものちぎりまゐらせしよしことしの御事しげきにいかでさることきこえあげつらむ。こころなしとはおもひ給ふるものからいけるかひある世なりけりな。かゝるもの見侍るにつけてもまことにうき世もすてがたういたゝき侍りぬ。かのかたにおくり侍らばいかにありがたうおもひきこえ侍らん。何もかりいでかこそ。あなかしこ。

向岡事　　言道

御もと人

133 なには集 一葉

三巻之内入選。元、素行、貞貫（望東の夫）石秀等の歌が細書されている。

134 和歌 一葉

筆者不明。へあら玉の年のかよひぢたどりてや霞に春のたちかへるらん。

135 和歌 一葉

こなる人のみまかりけるまへつかた時鳥のはつねをききていとうれしみけるさまのわすれられかたきにことしひとめぐりころよふかくなくこゑをきき侍りて　もとへさそはれし人はかへらぬたびぢよりよみがへりなくやまほとゝぎす　松軒といふおくりなをものせられたるおくつきにまゐりてへかなしさにありがたなみだうちそへてのきばの松とあふぎ見る哉。

136 しきのはねかき　六六首中、第一九首、第五一首―五九首の計一〇首が脱落している。（理由は不明）。　一四葉

137 意見書　「天明二年乃冬於東武存寄之儀申上候次第之事」二川相直（相近の父）。　二〇葉

138 畫像讃　表紙に楓の葉一〇枚を散らしにあしらい、題簽には小型短冊を用いている。「漢太中大夫東方先生画……」楷書。　二六葉

139 松蔭歌集　松蔭歌集一と題簽にあるが、二も含まっている。表紙は渋紙。　九二葉

140 雪乃日々記　自叙伝。　一三葉

141 御家臣伝　二〇葉

142 五月記　草藁。笛、琵琶などのことを記す。「天保三年七月廿八日二川相近撰。（一八三二）　八葉

143 松蔭草廬録藁第二　一八葉

144 弘文館本十七帖　解無畏摹。草書。　一四葉

145 真草千字文摹　（二川の印）。かご字。楷書。　四一葉

146 墨道和言　沢雄道人撰。　二六葉

147 「宗尊親王……」　歌集。　一六葉

148 唐七言古　草、楷書。　一三葉

149 夕立帖　「夕立帖共七」順徳院御製〈夕立のなごりばかりの庭潦日頃も不聞蝦鳴難梨。ほか。　一〇葉

150 植立帖　「植立帖共七」〈植立而君がしめゆふ華難礼婆玉等見えてや露も置らむ。ほか。　一五葉

151	入木傳統	入木道の系譜など。	一	一葉
152	松蔭山焦唱譜	二川相近記、「音律雑録」稿本含む。	五	七葉
153	承永帖	用紙に志波御紙役場印がある。「五八四字」と計算している。表紙内側に「安政三年(一八五六)丙辰神無月に　相遠」の今様などについて文を見る。なお、綴込みではなく「歌替天満宮碑文」が挿入してある。	四	四葉
154	二川相近略伝	梶原景翼記。草案と浄書と二種合せ綴じている。	四	葉
155	正続歌格類選巻之上	慶応四年(一八六八)戊辰六月写、玄溟源相爻。	五	四葉
156	書学大概	烏石山人著。尾張木貞貫題。	八	葉
157	蒙史巻之一	九行罫紙半紙型。完結。	四	三葉
158	聴雨録藁第一巻	楷書万葉仮名書き。郷土関係、知友交際関係のものに見るべきものが多い。なお第二帖は和歌一四首のみで断絶している。一〇行罫紙折本。右下方に「筑藩医官」「鶴原蔵籍」の印がある。	二	七葉
159	松蔭先生真蹟今川状		折本	三七折
160	うぐひすの記	表紙にも歌あり。また和歌六首を書し、末尾に「相近識」とある。	折本	七〇面
161	行書千字文 松蔭公	装本や、入念。	五	葉
162	過雁帖		二	三葉
163	亀子自叙律詩	巻末に「以昌雄蔵本摹勒　友古」とある。	一	〇葉
164	ふでべんけい	武術関係論稿。	一	五葉
165	音楽論	断片。	六	葉
166	松蔭焦唱譜	「高野大師真蹟」一葉。「北諸寒風」一葉。「古詩十九首」一葉。「春風双紙一」二葉。「小嵐集巻之一」一葉。「雨新詠」一葉。	七	葉
167	今様	草稿。	八	葉
			六	葉

168	嬰風園春秋	〈うゑおきしさくらかへでにつちかひてまづやのどけき御代の春秋〉の歌のほか「草書選詩題辞文政十二年（一八二九）四月十八日後学二川相近識」などを雑記している。	二二葉
169	今様会式	嬰風園蔵とある。	五葉
170	今様いろは歌譜	今様の譜を、「いろは歌」に施したもの。	六葉
171	山路の雪	雑記帖。	六三葉
172	夢幻物語上		二〇葉
173	新泉村居二十詠	代主人石松君作　相近。和歌・漢詩を対に作り、一五首を収む。	八葉
174	「積水」		八葉
175	「高圓」	万葉歌の写一六首。	一八葉
176	「今様浅緑」	ほか五六首（相近は五八首とす）の今様を収む。内三首を重複しているので、結局五三首となる。	一九葉
177	「雑記綴」	詩句・今様・千字文・和歌など雑多である。	二〇葉
178	「都帖サセ」		一四葉
179	米芾書史	ほかに紙片二葉を挿む。	九葉
180	二王帖	雑綴。	二〇葉
181	「歌学事始」	和歌を始めたことについての記事の断片がある。友古の書がある。	一八葉
182	新古今様一		一七葉
183	吉留杏村書	相近の小角印がある。	一一葉
184	太宗大令	草書。	一六葉

185 「玉篠樵女製」 「玉篠樵女製」と題簽にあるが、瀧三郎氏の朱書によれば、内容は玉篠の書か、と疑問視されている。 一八葉

186 「今様」 二三首。 一四葉

187 小山田帖 廿七 和歌。 一五葉

188 「南郭」 細字草書。 一五葉

189 筆弁慶 第二巻。 九葉

190 「南郭」 一二葉

191 集字朗詠集 上 特製表紙、桜の花を表裏にあしらい、題簽に小型短冊を用いている。序に「天保七年(一八三六)丙申長月二川相近識時年七十」とあり、「春、夏、秋、冬」の四部に分っている。この書は、相近の没年月にあたっており、二川様漢字平仮名の集大成であり、また絶筆というに値するものである。 一一六丁

192 集字朗詠集 下 特製表紙。楓の措葉を表裏にあしらい、題簽は小型短冊を用いている。「雑」の部、四七題。 一一六丁

193 「唐詩」 一四葉

194 「南郭」 一七葉

195 唐詩七絶 三 四九葉

196 山さと歌集 一 自作・歌友の作を収めている。 九葉

197 てならい歌鈔 二 古今の一・二の巻を収めている。 八葉

198 手習歌抄 四 万葉の十一・六を収む。平仮名書き。 九葉

199 宗尊帖 廿七 宗尊親王の歌その他。 一四葉

200	樵唱新譜	小形。表紙に松の木を描き、中央に隷書で題簽。文化十年正月松蔭樵者源相近識」の叙例のほか、老梅栞士題の詠小瑟の文がある。また、契冲・梅翁・成章・千蔭・県主・友泉公(継高)・高蹊・長哺子・春海・宣長等の歌を、万葉仮名にて書き、譜付けしたものである。	折本九折
201	草書千文		一六葉
202	初学詩法并序		二三葉
203	集字千文		一三葉
204	古楷一	折本一～五二まで。但し一四落丁。表紙は厚手の紙。	五二面
205	古楷二	折本。表紙は厚手の紙。	二六面
206	古楷三	折本。表紙は厚手の紙。「文政六年癸未九月十七日書畢共三本　相近」とある。	五七面
207	孫氏真草書譜	板表紙。巻頭に「二川友古」の印章あり。	五一折
208	「歌唱雑記」	譜、歌、文の雑綴。	一七葉
209	大唐三蔵聖教序	断片。	一葉
210	「都尉篇中……」		一三葉
211	詠湊千鳥	この題詠のほか和歌・銘文等断片。	一葉
212	「五味依然……」	雑記。	一二葉

福岡市立歴史資料館調査研究報告3

二川相近書跡目録

昭和51年1月

編集
発行　福岡市立歴史資料館
印刷　福岡印刷株式会社